

# Global Mix

グローバルミックスの現況

特別勘定(変額保険用) 月次運用報告書(2007年8月)

日ごろは格別のお引き立てを頂き、誠に有り難く御礼申し上げます。  
2007年8月における特別勘定(変額保険用)の運用状況をご報告致します。  
なお、毎月の運用状況は、弊社ホームページにおいてもご覧いただけます。

ホームページアドレス

<http://www.axa.co.jp/life/>

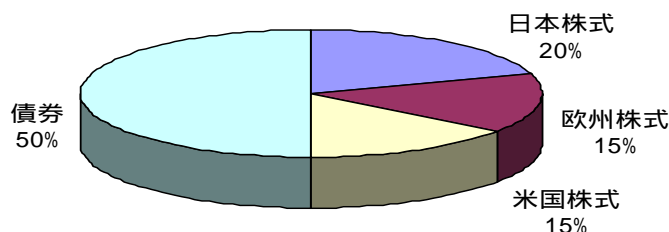
## 特別勘定の運用方針

日本国債をはじめとする債券及び日本・米国・欧州の株式に分散投資することにより、中長期での資産の安定的な成長を目指します。為替リスクは、原則として、フルヘッジします。基本的な資産配分は、株式50%程度、債券50%程度とします。特別勘定の運用は、各投資信託(ファンド)の買付けを含め、アクサ生命保険株式会社プロダクト部が行います。特別勘定の運用においては、アクサ・グループの運用会社(運用協力会社)の運用するファンドを買付けます。運用協力会社およびファンドは、今後予告なく変更される可能性があります。変更については、随時お知らせいたします。各ファンドの資産配分比率は、金融情勢、経済動向などにより変更することがあります。

## 目次

特別勘定の運用方針	1
運用協力会社のご紹介	1
運用環境について	2
特別勘定の資産内容について	3
各ファンドについて	4-6
注意事項	6
契約月別の運用実績の例	7-9

(グローバルミックスの資産配分比率)



\* 上記は設定当初の資産配分比率です。  
\* 資産配分比率は、将来的には変更されることがあります。

## 運用協力会社(ファンドの運用会社)のご紹介

### アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社

アクサ・ローゼンバーグは、グローバルに業務を展開するアクサ・ローゼンバーグ・グループの日本法人として、機関投資家の資金や投資信託の運用を行う資産運用会社です。ファンダメンタルズ情報と最新の運用テクノロジーを結合することにより、一貫した投資哲学に基づくアクティブ運用を行っています。

1987年の日本進出以来、日本株式の運用業務と内外の株式運用商品のご提供を行ってまいりました。

現在では、株式、債券、オルタナティブ投資商品まで幅広くお客様のニーズにお応えした高品質な運用商品をご提供しています。

- ・当該資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- ・また、予告なしに当該資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・当該資料は、当社の変額保険の運用状況などを開示するためのものであり、生命保険契約の勧誘を目的としたものではありません。
- ・当該資料の運用実績に関する内容は過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- ・当該資料に記載されている各表にある金額、比率等はそれぞれの項目を四捨五入等をしていきますので、合計等と合致しないことがあります。



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 TEL 03-6737-7777 (代表)  
編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

## 運用環境について(2007年8月)

## 【日本株式市場】

米国における信用力の低い個人向け住宅融資(サブプライムローン)問題は株式市場全体に大きな影響を与えました。特に17日の5%以上の下げ幅はITバブル以降最大であり、TOPIXは今年の最安値をつけました。円のキャリートレードの巻き戻しによる円高により、下落に拍車がかかりました。これらの問題に対処するため、米連邦準備制度理事会(FRB)は公定歩合を引き下げ、市場に流動性を供給することを決定し、米ブッシュ大統領がサブプライム問題対策のコメントを発表すると、日本株式市場からも好意的に受け取られました。TOPIXは5.7%下落、日経平均は3.9%のマイナスとなりました。中小型株も弱含みでした。信用収縮懸念が、大型株よりも中小型株に大きな影響を与えました。東証2部、JASDAQはそれぞれ9.9%と7.2%下落しました。小型株はこれら以上に下落しました。東証マザーズは15.6%、ヘラクレスは13.6%下げました。一方、ベータの低いディフェンシブ銘柄が強含みしました。

需給面では、外国人投資家が売り越しとなっており、個人投資家が最大の買い手となりました。三菱商事(8058)、JFEホールディングス(5411)、キヤノン(7751)などをはじめとする企業が株価下落の局面で自社株買いを実施したため、事業会社も買い越しとなりました。売買代金シェアでは外国人投資家が先月の58.3%から66.3%に増加している一方、個人投資家は先月の28.6%から21.5%と低下しました。

## 【米国株式市場】

米国株式市場は信用力の低い消費者向けの住宅融資(サブプライムローン)の余波を受け、信用不安が拡大したものの、中央銀行の迅速な対応が功を奏したことや、企業の好決算などが後押しし、米国株式市場は乱高下しました。主要株価指数の騰落率は、S&P500種株価指数は+1.29%、ダウ平均株価は+1.10%、ナスダック指数は+1.97%となりました(いずれも現地通貨ベース)。

月前半は、企業決算が好調であったことから上昇しましたが、月中盤に仏BNPパリバはサブプライムローンに関連した投資で損失を受け、傘下のABS(資産担保証券)ファンド3つの基準価格算出を停止し、資産凍結しました。金融機関による損失が表面化したことから信用不安が拡大し、米国株式市場は調整しました。これに対し、米連邦準備制度理事会(FRB)は継続的に資金供給を行い、17日には公定歩合を0.5%引き下げ5.75%とし、米国株式市場は反発しました。その後、早期の公定歩合引下げ観測が高まる一方、発表された経済指標が軟調であったことから一進一退の展開となり、当月を終えました。

## 【欧州株式市場】

欧州株式市場はまちまちの動きとなりました。主要株価指数の騰落率は、MSCI欧州株価指数は0.80%、FT100指数は0.89%、仏CAC指数は1.54%、独DAX指数は+0.71%となりました(いずれも現地通貨ベース)。月前半は、好調な企業決算が発表されたものの、信用力の低い消費者向けの住宅融資(サブプライムローン)の焦げ付きに伴う信用不安から、欧州株式市場は好悪材料が入り混じる展開となりました。

月半ばに仏大手銀行傘下の複数の投資ファンドが、サブプライムローンに関連した投資で損失し、資産凍結を発表したことから、欧州の金融セクターに予想以上の影響を及ぼしているとの懸念が高まり、欧州株式市場は下落しました。これに対し、欧州中央銀行(ECB)は継続的に資金供給を行いました。また米国では米連邦準備制度理事会(FRB)が公定歩合を引き下げたことが好感され、欧州株式市場は反発しました。月後半は、依然として信用不安に対する懸念があったものの、米国で利下げ観測が高まったことが株価を支え、反発基調を維持し、堅調に推移しました。

## 【国内債券市場】

国内債券市場は、先月に引き続き、米国における信用力の低い個人向け住宅融資(サブプライムローン)問題が信用収縮につながり、リスク回避的な動き、いわゆる「質への逃避」の動きが継続し、金利が急低下する動きとなりました。海外要因に日本債券市場が大きく影響を受ける動きを強めた月となりました。

月前半は、米サブプライムローン問題が、信用収縮懸念を増大しリスク資産を圧縮し安全資産に資金を移す「質への逃避」が世界的な動きとなり、株安、債券高の動きが加速しました。月初、サブプライムローン問題が一旦落ち着きを見せ始めた矢先、欧州大手銀行系ファンドの閉鎖のニュースが、この問題を再燃させ、各国長期金利は急低下する動きとなりました。米欧中央銀行が流動性確保のため大規模な資金供給を実施しましたが、この動きは止まらず、17日、米連邦準備制度理事会(FRB)が臨時米連邦公開市場委員会(FOMC)を開き、公定歩合を0.5%引き下げ5.75%とすることを決定し、この動きは一旦収束へ向かいました。

月後半に入ると、「質への逃避」の動きは小康状態になったものの、信用不安が払拭されるまでには至りませんでした。金利急低下で、あっさり1.6%を割り込む水準まで低下した10年国債利回りは、月末に向け多少買い戻されました。しかし、サブプライムローン問題の解決には多少の時間を要するとの見方や、海外要因リスクを懸念し、8月の金融政策決定会合にて政策金利を据え置いた日銀が当面金利正常化の利上げには動き難いとの見方が台頭し、買戻しは限定的となりました。

## (参考指標)

		2007年7月末	2007年8月末	変化率
日本	TOPIX(東証株価指数)	1706.18 ポイント	1608.25 ポイント	-5.74%
	日経平均	17248.89 円	16569.09 円	-3.94%
	新発10年国債	1.790 %	1.600 %	0.190低下
米国	NYダウ	13211.99 ドル	13357.74 ドル	1.10%
	S&P500	1455.27 ポイント	1473.99 ポイント	1.29%
	NASDAQ	2546.27 ポイント	2596.36 ポイント	1.97%
	10年国債	4.739 %	4.529 %	0.210低下
欧州	FT100	6360.10 ポイント	6303.30 ポイント	-0.89%
	CAC40	5751.08 ポイント	5662.70 ポイント	-1.54%
	DAX	7584.14 ポイント	7638.17 ポイント	0.71%
	独10年国債	4.347 %	4.242 %	0.105低下
為替	米ドル/円レート	118.94 円	116.07 円	2.41%円高
	ユーロ/円レート	163.08 円	158.57 円	2.77%円高

\* 各国10年国債は、ジェネリック日本指標国債10年単利(日本)、ジェネリック米国利回り10年(米国)、ドイツ国債10年の利回り(欧州)を表示しております。

\* 為替は、株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場中値を採用しております。



## 特別勘定の資産内容について(2007年8月)

### 【特別勘定のINDEXの推移】

「特別勘定のINDEX」とは、弊社が変額保険「Global Mix」に係る資産の管理・運用を行っている特別勘定の資産運用状況を表す指数をいいます。この数値は毎日増減し、ご契約の積立金の金額もこれにともない増減いたします。



日付	INDEX
06/09/30	0.972
2006/10/31	0.976
2006/11/30	0.977
2006/12/31	0.997
07/01/31	1.007
07/02/28	1.009
07/03/31	1.009
07/04/30	1.017
07/05/31	1.027
07/06/30	1.025
07/07/31	1.007
07/08/31	0.993

### 【騰落率】

過去1ヶ月	過去6ヶ月	過去1年	過去2年	過去3年	設定来
-1.46%	-1.68%	2.22%	10.50%	19.67%	-0.79%

注) 設定日である2000年8月1日を1.00としたパフォーマンスを示しています。

注) 騰落率とは、一定期間における運用実績の変動率のことです。

注) 上記の数値は過去の運用実績であり、将来の結果をお約束するものではありません。

注) この運用実績は、ご契約者の支払われた保険料から死亡保障額等に当てられるものを控除した部分の伸び率です。

### 【特別勘定資産の内訳】

項目	金額 (千円)	構成比 (%)
預貯金・コールローン	762,366	2.0
日本株式型投資信託 (アクサR)	3,547,558	9.4
日本株式型投資信託 (アクサR)	5,305,165	14.0
米国株式型投資信託(アクサR)	5,608,579	14.8
欧州株式型投資信託(アクサR)	3,780,568	10.0
日本債券型投資信託(アクサR)	18,377,066	48.5
その他	495,257	1.3
特別勘定合計	37,876,563	100.0

注) 金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第2位を四捨五入しておりますが、合計値に対する調整は行っていません。

### 【保有契約高】

項目	件数 (件)	金額 (千円)
有期型	1,147	2,654,007
終身型	58,389	317,147,955
合計	59,536	319,801,963

注) 金額の単位未満は切り捨てとしました。

### 【特別勘定の解説】

当特別勘定は原則として、50%を安全資産での運用にしております。

積極的な運用を目指す株式部分は、当面日本株で全体の25%、欧米株式で25%の資産配分といたします。

リスク分散の観点から、少数銘柄に偏ることなく、資産種類および各資産ごとの分散投資を心掛け、バランスのとれた運用を行います。

### 【今後の運用方針】

特別勘定の運用資産における株式と債券の組入れ比率は現行水準を継続します。また、投資対象を幅広く分散することでより安定的な運用を行ってまいります。

(アクサ生命保険株式会社 プロダクト部)



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 TEL 03-6737-7777 (代表)  
編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

## 日本株式ファンド(運用会社:アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社)

**【運用方針】:** わが国の証券取引所上場株式および店頭登録銘柄に投資し、信託財産の中・長期的な成長を目指します。割安でかつ成長性の高い銘柄を中心に投資することで、安定的にベンチマークを中・長期的に上回る運用成果を目指します。  
「アクサ・ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A) <適格機関投資家私募>」に投資します。

**【ベンチマーク】:** TOPIX

### 【運用状況】

当月は、ベンチマークであるTOPIXが 5.74%であったのに対し、当ファンドは、6.50%となり、0.76%のアンダーパフォームとなりました。  
当月の日本株式市場は、株価純資産利回りの高い銘柄が相対的に下落する傾向にあり、当ファンドではこれらの銘柄をベンチマーク比で多めに保有していたことがマイナスに寄与しました。  
業種別では、下落した金属製品を多めに保有していたことや、上昇した不動産業、輸送用機器を少なめに保有していたことは、マイナスへの寄与となりました。  
個別銘柄では、下落した本田技研工業を多めに保有していたことや、上昇した東京瓦斯、ダイキン工業を少なめに保有していたことは、いずれもマイナスへの寄与となりました。

### 【今後の運用方針】

当ファンドの運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、ポートフォリオをベンチマークからの乖離が一定の範囲内に収まるよう構築することで、中・長期的な観点から安定的にベンチマークを上回る運用を目指します。  
割安株の選別は、独自に開発したシステムティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行うことを基本とします。

(アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社 日本株式運用チーム)

基準価額推移(対ベンチマーク)



組入上位銘柄

	銘柄	業種	比率
1	トヨタ自動車	輸送用機器	4.4%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.7%
3	キヤノン	電気機器	2.6%
4	本田技研工業	輸送用機器	2.5%
5	新日本製鐵	鉄鋼	1.9%
6	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	1.9%
7	日本電信電話	情報・通信業	1.8%
8	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	1.6%
9	松下電器産業	電気機器	1.6%
10	ジェイ エフ イー ホールディングス	鉄鋼	1.5%
	合計		22.5%
	組入銘柄数		333銘柄

\*上記比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

## 日本バリュー株式ファンド(運用会社:アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社)

**【運用方針】:** わが国の証券取引所上場株式および店頭登録銘柄に投資し、信託財産の中・長期的な成長を目指します。割安でかつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資することで、ベンチマークを中・長期的に上回る運用成果を目指します。  
「アクサ・ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド(B) <適格機関投資家私募>」に投資します。

**【ベンチマーク】:** TOPIX

### 【運用状況】

当月はベンチマークであるTOPIXが 5.74%となったのに対し、当ファンドは 6.83%となり、1.09%のアンダーパフォームとなりました。  
当月の日本株式市場は、株価純資産利回りの高い銘柄が相対的に下落する傾向にあり、当ファンドではこれらの銘柄をベンチマーク比で多めに保有していたことがマイナスに寄与しました。  
業種別では、下落したその他金融業、金属製品を多めに保有していたこと、上昇した不動産業を少なめに保有していたことがマイナスへの寄与となりました。  
個別銘柄では、それぞれ下落した三菱重工業、野村ホールディングス、伊藤忠商事などを多めに保有していたことがマイナスへの寄与となりました。

### 【今後の運用方針】

当ファンドの運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、積極的に投資することで、ベンチマークを中・長期的に上回る運用を目指します。  
割安株の選別は、独自に開発したシステムティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行うことを基本とします。

(アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社 日本株式運用チーム)

基準価額推移(対ベンチマーク)



組入上位銘柄

	銘柄	業種	比率
1	松下電器産業	電気機器	4.7%
2	日本電信電話	情報・通信業	4.2%
3	ジェイ エフ イー ホールディングス	鉄鋼	4.0%
4	トヨタ自動車	輸送用機器	3.5%
5	本田技研工業	輸送用機器	2.7%
6	KDDI	情報・通信業	2.7%
7	三菱重工業	機械	2.6%
8	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.4%
9	富士フィルムホールディングス	化学	2.3%
10	富士通	電気機器	2.2%
	合計		31.3%
	組入銘柄数		275銘柄

\*上記比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

注)ここでは、特別勘定から買付けるファンドのパフォーマンスを評価しています。特別勘定自体のINDEXではないことにご注意ください。



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 TEL 03-6737-7777(代表)  
編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター



**欧州株式ファンド(運用会社:アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社)**

**【運用方針】:** 幅広い投資対象(欧州約3,500社が対象)を一貫した統計的手法で分析し、独自のクオンツモデルによる銘柄選択を行い且つ、リスクを限定しつつ安定的にベンチマークを上回ることを目標とします。

「アクサ・ローゼンバーグ・欧州株式ファンド(A) <適格機関投資家私募>」に投資します。

**【ベンチマーク】:** MSCI 欧州株式指数(為替ヘッジあり)

**【運用状況】**

当月はベンチマークであるMSCI欧州株価指数が 0.46%であったのに対し、当ファンドは 0.28%となり、+0.18%のアウトパフォーマンスとなりました。

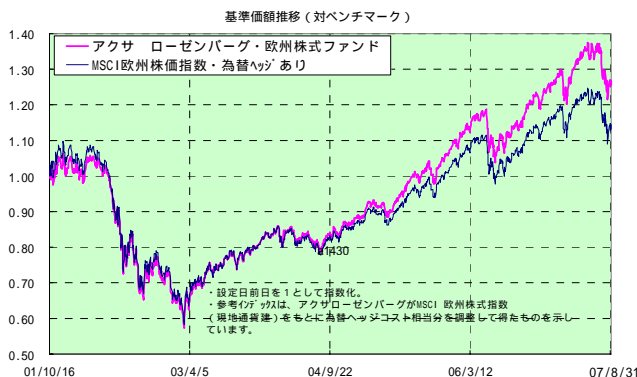
当月の欧州株式市場は、利益変化のモメンタムが強い傾向にあり、当ファンドではこれらの銘柄をベンチマークと比較して少なめに保有していたことがプラスに寄与しました。

業種別では、下落した銀行やその他金融を少なめに保有したこと、また上昇した移動体通信を多めに保有していたことがプラスに寄与しました。個別銘柄では、上昇したFrance Telecom SA(フランス・テレコム、フランス)、Volkswagen AG(フォルクスワーゲン、ドイツ)やVodafone Group Plc(ボーダフォン・グループ、イギリス)などを多めに保有していたことはプラスに寄与しました。

**【今後の運用方針】**

当ファンドの運用方針は、欧州企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル(定量分析)等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行うことを基本とします。

(アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社)



基準価額推移(対ベンチマーク)

順位	銘柄	業種	比率
1	トタル SA	エネルギー	2.1%
2	ボーダフォン・グループ PLC	電気通信サービス	2.1%
3	ロイヤル・ダッチ・シェル-PLC-A-SHS	エネルギー	1.9%
4	BP PLC	エネルギー	1.9%
5	HSBCホールディングス PLC	銀行	1.8%
6	バンコ・サンタデル・セントラル・イスパノ	銀行	1.7%
7	ロイヤル・バンク・オブ・スコットランド	銀行	1.6%
8	ダイムラー・クライスラー AG-REG	自動車・自動車部品	1.5%
9	ネスレ SA-REGISTERED	食品・飲料・タバコ	1.5%
10	ENI SPA	エネルギー	1.4%
合計			17.5%
組入銘柄数			315銘柄

\* 上記比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

**米国株式ファンド(運用会社:アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社)**

**【運用方針】:** 幅広い投資対象(米国約6,500社が対象)を一貫した統計的手法で分析し、独自のクオンツモデルによる銘柄選択を行い且つ、リスクを限定しつつ安定的にベンチマークを上回ることを目標とします。

「アクサ・ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A) <適格機関投資家私募>」に投資します。

**【ベンチマーク】:** S & P 500(為替ヘッジあり)

**【運用状況】**

当月はベンチマークであるS&P500種株価指数が 1.52%であったのに対し、当ファンドは 1.44%となり、+0.08%アウトパフォーマンスとなりました。

当月の米国株式市場は、これまでに相対的にみて株価の上昇していた銘柄が引き続き上昇する傾向にあり、当ファンドではこれらの銘柄ベンチマークに比べて多めに保有していたことがプラスに寄与しました。

業種別では、上昇した防衛関連、保険を多めに保有していたことや下落したその他金融を少なめに保有していたことはいずれもプラスへの寄与となりました。

個別銘柄では、下落した住宅金融大手のCountrywide Financial Corporation(カントリーワイド・ファイナンシャル)を保有していなかったことや、上昇した資本財のRaytheon Company(レイセオン、パミュダ)とDeere & Company(ディーア)を多めに保有していたことはプラスに寄与しました。

**【今後の運用方針】**

当ファンドの運用方針は、米国企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル(定量分析)等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行うことを基本とします。

(アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社)



基準価額推移(対ベンチマーク)

順位	銘柄	業種	比率
1	エクソン・モービル	エネルギー	3.5%
2	ゼネラル・エレクトリック	資本財	2.7%
3	バンク・オブ・アメリカ	銀行	2.5%
4	IBM	テクノロジー製品・機器	2.0%
5	ファイザー	医薬品・バイオテクノロジー	1.9%
6	シスコシステムズ INC	テクノロジー製品・機器	1.9%
7	JPモルガン・チェース&CO	各種金融	1.7%
8	AT&T INC	電気通信サービス	1.6%
9	ヒューレット・パッカード	テクノロジー製品・機器	1.6%
10	マイクロソフト	ソフトウェア・サービス	1.6%
合計			21.0%
組入銘柄数			282銘柄

\* 上記比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

注)ここでは、特別勘定から買付けるファンドのパフォーマンスを評価しています。特別勘定自体のINDEXではないことにご注意ください。



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 TEL 03-6737-7777 (代表)  
編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

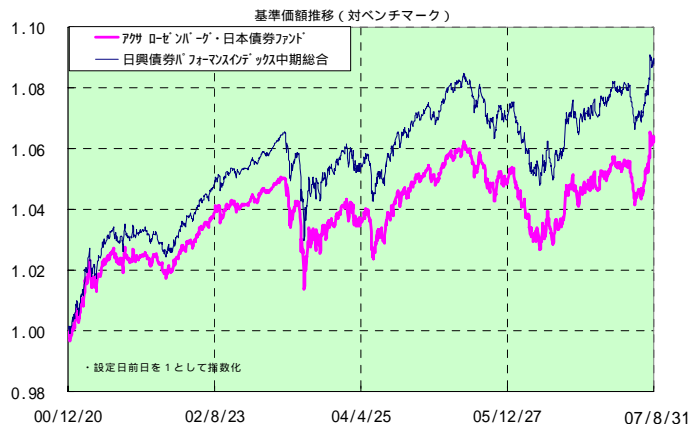
**日本債券ファンド(運用会社:アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社)**

**【運用方針】:** 主としてわが国ならびに外国の公社債投資を行い、安定した収益の確保を目指して運用を行います。  
「アクサ・ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B) <適格機関投資家私募>」に投資します。

**【ベンチマーク】:** 日興債券パフォーマンス・インデックス中期総合

**【運用状況】**

当月はベンチマークが+0.95%上昇したのに対し、当ファンドは+0.96%の上昇となりました。  
足元、消費関連等弱含んでいる指標もあるものの、景気、物価情勢は概ね日銀の展望に沿う形で推移してきており、利上げまでの時間軸は確実に短くなっているとの見方を持っていました。と同時に、海外要因リスクが急激に増大し、金利正常化実現の不確実性が増してきたと判断していました。一方で、海外要因主導の「質への逃避」での金利低下が急激であったことから、月初旬、金利水準感や、8月後半の金融政策決定会合の行方を踏まえ、リスクを抑えることに主眼を置き、小幅に長期化していたデュレーションを中立に戻しました。結局、米サブプライムローン問題を発端とする信用収縮は継続し、8月の金融政策決定会合で日銀は金融政策を据え置きました。したがって、国内の景況感を勘案すると更なる金利低下余地は限定的であるものの、日銀による早急な金利正常化もまた、難しくなるとの判断から、月後半、小幅にデュレーションの長期化を行いました。デュレーション長期化の期間が短かったことから、パフォーマンスへの影響は大きくなかったものの、対ベンチマークでプラスの寄与となりました。



**【今後の運用方針】**

日銀は、今後も金利の正常化を意識した金融政策を続けて行くものと思われます。足元の消費者物価指数はゼロ近傍となっているものの、景気、物価動向は概ね日銀の展望に沿った形で推移しております。しかし、外的要因としての米サブプライムローン問題の波及等依然として不確実要素が増大しており、日銀は再度、それらの点について詳細に点検を行う必要があると考えられます。8月利上げを見送ったことは、この不確実性の高まりを強く意識しているものと思われます。したがって、当面は、米サブプライムローン問題の拡大や長期化、及び国内景気動向への影響を十分に意識しながらの舵取りとなるため、金利正常化を急ぐことは難しいと思われます。また、不確実性の高まりは金利の振れ幅拡大につながる可能性が高く、その点を注視して運用を行う必要があると思われます。当面は、国内要因のみならず外的要因の影響についても十分に注視をして行く方針です。

基準価額推移(対ベンチマーク)

	組入比率	デュレーション
公社債	98.7%	4.42年
短期資産等*	1.3%	9.19年
合計	100.0%	4.48年

\*債券先物を含む

公社債の内訳

	組入比率	デュレーション
国債	85.6%	4.64年
地方債	0.0%	0.00年
特殊・財投債	1.8%	3.66年
金融債	0.0%	0.00年
社債等	11.3%	6.25年
コールローンその他*	1.3%	9.19年
合計	100.0%	4.86年

\*債券先物を含む

格付別債券構成比率

格付区分	構成比率
AAA	1.8%
AA	90.6%
A	5.9%
BBB	0.4%
BB以下	0.0%
合計	98.7%

\*\* S&P格付を優先

(アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社 日本債券運用チーム)

注)ここでは、特別勘定から買付けるファンドのパフォーマンスを評価しています。特別勘定自体のINDEXではないことにご注意ください。

**注意事項**

**変額保険の仕組み**  
 変額保険とは、保険金額が「特別勘定」の資産運用実績にもとじて変動する生命保険です。  
 \*特別勘定とは、変額保険にかかわる資産の管理・運用を行うもので、他の保険種類にかかわる資産とは区分し、独立して管理・運用を行います。

**変額保険のリスクについて**  
**市場リスク**  
 特別勘定の資産運用には、株価の低下や為替の変動等による投資リスクがあります。場合によっては、お受け取りになる保険金額(有期型の場合、満期保険金を含む)や解約払いもし金額の合計額が、払い込まれた保険料の合計額を下回る可能性があります。なお運用実績にかかわらず、死亡・高度障害時保険金は保証されています。

**信用リスク**  
 万一、引受生命保険会社が経営破綻に陥った場合、ご契約時にお約束した給付金等の金額が削減されることがあります。その場合、生命保険契約者保護機構により、保険契約者保護の措置が図られることがありますが、この場合にも、ご契約時の給付金等の金額が削減されることがあります。



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 TEL 03-6737-7777(代表)  
 編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

## 契約月別の運用実績の例

(一時払、男性40歳加入、基本保険金額1,000万円の場合。但し、有期型の場合は、保険期間10年)

契約日	終身型		有期型		契約月別 運用実績 (%)	年複利 (%)
	保険金額 (万円)	変動保険金額 (万円)	保険金額 (万円)	変動保険金額 (万円)		
平成12年 8月 1日	1,000	-298	1,000	-261	-0.79	-0.11
平成12年 9月 1日	1,000	-306	1,000	-270	-2.26	-0.33
平成12年 10月 1日	1,000	-281	1,000	-245	0.53	0.08
平成12年 11月 1日	1,000	-260	1,000	-225	2.81	0.41
平成12年 12月 1日	1,000	-236	1,000	-201	5.43	0.79
平成13年 1月 1日	1,000	-214	1,000	-180	7.76	1.13
平成13年 2月 1日	1,000	-226	1,000	-193	5.79	0.86
平成13年 3月 1日	1,000	-186	1,000	-154	10.31	1.52
平成13年 4月 1日	1,000	-163	1,000	-131	12.79	1.89
平成13年 5月 1日	1,000	-189	1,000	-156	9.20	1.40
平成13年 6月 1日	1,000	-180	1,000	-148	9.87	1.52
平成13年 7月 1日	1,000	-164	1,000	-133	11.39	1.77
平成13年 8月 1日	1,000	-134	1,000	-103	14.67	2.28
平成13年 9月 1日	1,000	-90	1,000	-60	19.60	3.03
平成13年 10月 1日	1,000	-36	1,000	-7	25.72	3.94
平成13年 11月 1日	1,000	-53	1,000	-24	23.14	3.63
平成13年 12月 1日	1,000	-59	1,000	-30	22.00	3.52
平成14年 1月 1日	1,000	-58	1,000	-29	21.62	3.51
平成14年 2月 1日	1,000	-27	1,000	0	24.94	4.07
平成14年 3月 1日	1,000	-35	1,000	-6	23.55	3.92
平成14年 4月 1日	1,000	-50	1,000	-21	21.30	3.63
平成14年 5月 1日	1,000	-41	1,000	-13	21.83	3.77
平成14年 6月 1日	1,000	-44	1,000	-15	21.13	3.72
平成14年 7月 1日	1,000	-1	1,000	26	25.82	4.55
平成14年 8月 1日	1,000	38	1,000	66	30.19	5.33
平成14年 9月 1日	1,000	42	1,000	70	30.18	5.42
平成14年 10月 1日	1,000	76	1,000	105	33.88	6.11
平成14年 11月 1日	1,000	80	1,000	109	33.87	6.22
平成14年 12月 1日	1,000	65	1,000	93	31.54	5.94
平成15年 1月 1日	1,000	97	1,000	126	34.99	6.64
平成15年 2月 1日	1,000	128	1,000	157	38.22	7.32
平成15年 3月 1日	1,000	136	1,000	166	38.76	7.55



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 TEL 03-6737-7777 (代表)

編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

契約日	終身型		有期型		契約月別 運用実績 (%)	年複利 (%)
	保険金額 (万円)	変動保険金額 (万円)	保険金額 (万円)	変動保険金額 (万円)		
平成15年 4月 1日	1,000	142	1,000	172	38.93	7.73
平成15年 5月 1日	1,000	124	1,000	154	36.10	7.37
平成15年 6月 1日	1,000	109	1,000	138	33.76	7.08
平成15年 7月 1日	1,000	90	1,000	118	30.95	6.69
平成15年 8月 1日	1,000	80	1,000	108	29.28	6.49
平成15年 9月 1日	1,000	72	1,000	100	27.85	6.34
平成15年 10月 1日	1,000	71	1,000	99	27.28	6.35
平成15年 11月 1日	1,000	60	1,000	88	25.54	6.11
平成15年 12月 1日	1,000	66	1,000	94	25.75	6.30
平成16年 1月 1日	1,000	55	1,000	83	24.04	6.05
平成16年 2月 1日	1,000	44	1,000	71	22.28	5.77
平成16年 3月 1日	1,000	33	1,000	60	20.55	5.49
平成16年 4月 1日	1,000	20	1,000	47	18.62	5.12
平成16年 5月 1日	1,000	23	1,000	50	18.57	5.24
平成16年 6月 1日	1,000	36	1,000	63	19.60	5.66
平成16年 7月 1日	1,000	26	1,000	53	17.99	5.36
平成16年 8月 1日	1,000	46	1,000	74	19.91	6.06
平成16年 9月 1日	1,000	48	1,000	76	19.67	6.17
平成16年 10月 1日	1,000	50	1,000	78	19.48	6.29
平成16年 11月 1日	1,000	56	1,000	84	19.74	6.56
平成16年 12月 1日	1,000	46	1,000	74	18.17	6.26
平成17年 1月 1日	1,000	33	1,000	60	16.19	5.79
平成17年 2月 1日	1,000	35	1,000	63	16.07	5.94
平成17年 3月 1日	1,000	23	1,000	50	14.24	5.47
平成17年 4月 1日	1,000	25	1,000	52	14.04	5.59
平成17年 5月 1日	1,000	44	1,000	72	15.77	6.48
平成17年 6月 1日	1,000	35	1,000	62	14.36	6.15
平成17年 7月 1日	1,000	25	1,000	52	12.81	5.72
平成17年 8月 1日	1,000	15	1,000	42	11.32	5.28
平成17年 9月 1日	1,000	11	1,000	38	10.50	5.12
平成17年 10月 1日	1,000	-18	1,000	7	6.82	3.50
平成17年 11月 1日	1,000	-9	1,000	16	7.40	3.97
平成17年 12月 1日	1,000	-31	1,000	-31	4.63	2.62
平成18年 1月 1日	1,000	-45	1,000	-45	2.74	1.64
平成18年 2月 1日	1,000	-55	1,000	-55	1.31	0.83





契約日	終身型		有期型		契約月別 運用実績 (%)	年複利 (%)
	保険金額 (万円)	変動保険金額 (万円)	保険金額 (万円)	変動保険金額 (万円)		
平成18年 3月 1日	1,000	-46	1,000	-46	1.84	1.23
平成18年 4月 1日	1,000	-52	1,000	-51	0.93	0.65
平成18年 5月 1日	1,000	-46	1,000	-46	1.14	0.85
平成18年 6月 1日	1,000	-9	1,000	-9	4.60	3.67
平成18年 7月 1日	1,000	-9	1,000	-9	4.26	3.64
平成18年 8月 1日	1,000	-6	1,000	-6	4.23	3.90
平成18年 9月 1日	1,000	-21	1,000	-46	2.22	2.22

注(1) 保険金額は、基本保険金額に変動保険金額を加えた保障額を示したものです。ただし、変動保険金額が負値の場合、保険金額は基本保険金額を表示しています。

- (2) 契約月別運用実績は、契約時点に特別勘定に投入した金額の平成19年8月末までの運用実績を示したものです。  
 なお、この運用実績は、ご契約者の支払われた保険料から死亡保障額等に当てられたものを控除した部分の伸び率です。
- (3) 年複利は、契約月別運用実績を年複利換算したものです。

